

## 2学期スタート

長い夏休みが終わりました。今年も昨年ほどではありませんが、暑い夏休みとなりました。皆さんが元気な姿でここに集まっていることをとてもうれしく思います。この十分に時間のあつる夏休みを、有意義に過ごすことができましたか。計画どおり生活し、目標を達成できた人も多くいることでしょうか。しかし、ただただ生活をしまい反省することが多い夏休み明けの人もいることだと思います。今日から始まる2学期の生活をしっかりと過ごしていきます。さて、今年の夏休みも、心動かされる場面に出会いました。その多くはやはり大中学生が頑張っている姿の中にあつました。部活動の大会では勝つことの喜びもありましたが、負けた時の悔しさ、苦しさ、チームメイトの友情。そんな場面を見ることができ、涙しそうになった時もあります。また、ボランティア活動に多くの生徒が参加し、地域の方々と手を携えながら働く姿や、新たな試みとして行われた書道パフォーマンスに、惜しげも無く協力してくださる地域の方々の姿にも感動させられました。また、今年初めて海外派遣の団長として市内20名の中学生とともにオーストラリアへ行ってきました。自分の英語力の無さを痛感しましたし、日本がとてもいい国だということも強く感じました。一番感心したのは、一緒に行った生徒たちの可能性の大きさです。外国の家庭でのホームステイや現地の学校で授業を受けるなど、団員たちの度胸のよさと積極性とコミュニケーション能力の高さには感心しました。いよいよ2学期が始まりました。これから気候もよくなり、学校生活をするには一番いい時期です。大中フェスタや合唱祭など大きな行事もあり楽しく準備に取り組める時でもあります。日々の学習で積極的に取り組み頭脳を鍛え、朝練習の始まる部活動では体を鍛え、清掃活動や学級の団結で、おおいに心を鍛え、心豊かな人間に成長していきます。



### ＜ボランティア活動の様子＞

## 始業式意見発表

「砲丸投げと僕」

1年2組 小森 健太

中学校に入学し、部活動を何部にしようかと悩んでいたとき、齊藤先生に、「砲丸投げをやってみないか」と声をかけていただき陸上部に体験入部しました。体験入部した陸上部では、先輩たちがアップなどでの体の動かし方をしっかりと教えてくれました。さらに、緊張していた自分にも親切に話しかけてくれました。このとき自分には絶対に陸上部だけしかないと思い、陸上部に本入部することを決めました。本格的に陸上を始め、希望の砲丸投げもたくさんできました。しかし、なかなかフォームを自分のものにできずに悩んでいる時も、先輩が一投一投アドバイスをしてくれて、日に日に記録が伸びていきました。郡大会では今までの練習成果が出て、1年オープン砲丸投で優勝することができました。先輩は、県大会の決勝まで進みました。先輩の姿を見て、自分も大きな舞台に出たいという大きな目標ができました。夏休みの練習では、けがをしないことを意識して練習してきました。例えば、アップストレッチでは、しっかりと体を伸ばし体を温める。暑い中では無理をしすぎない。家に帰ってからのストレッチを欠かすことなく行うなど、けがをしないように自分の中で思いつくことはやってきました。次に県ジュニアオリンピックを意識してきました。ジュニアオリンピックでは、今までに使っていた砲丸より重い砲丸を使うということもあり、早くから重い砲丸を練習で投げたり、フォームも少しずつ苦手な部分を修正したりすることができました。習得できつつあるフォームを忘れないように、家でも確認するようにしていました。そして、8月31日に行われた県ジュニアオリンピックでは、練習の成果を発揮することができました。これからは、しっかりとフォームを作り上げ、けがにも気をつけて自分の大きな目標を達成できるように頑張りたいです。



### 「リーダーとして活躍するために」

2年5組 片桐 朱音



本来は、青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターへ参加して、その内容を発表する予定でしたが、台風のために中止となってしまったため、1学期の生徒会執行部の活動について発表します。さまざまな活動の中で、私が一番やりがいを感じたのは、「大中ラジオ」です。私の公約でもあり、大中を温かい雰囲気にしたくて、この活動を行いました。私が放送室で放送していたときは、放送室内はほっこりとした温かい雰囲気となっていました。みなさんの教室ではいかがでしたか。そんな雰囲気を大中全体へ広げていきたいです。その他にも、あいさつ運動や生徒議会、生徒集会、生徒総会などの集会も行いました。特に、生徒議会や生徒総会では、質問や改善案などがたくさん飛び交い、大中学生のレベルの高さを改めて感じ、驚きました。あいさつ運動は、外国語や方言を使ったものも行いました。いつもと違うあいさつをすることで、笑顔で自分からあいさつをしてくれる人が多く、私自身も楽しくあいさつをすることができました。次に、青少年赤十字の活動について話します。赤十字の活動には、外国との交流や、健康や防災に関することなどがあります。大中の学校生活の中では、異文化に触れる外国語あいさつ運動や、健康に関する健康づくり講座、防災のための避難訓練などがあります。最近、日本と韓国との関係があまりよくないというニュースを聞きました。私の好きな音楽グループでも、そのような問題があるようです。政治と音楽を一緒にするのは良いことではないと思います。音楽で外国との関係を築いて、仲良く平和に暮らしたいと思いました。大中のリーダーとして活動するために、青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターへ参加して、先輩や大人に頼らず、自分の考えをもつ自主性や、自ら気づき行動する積極性を養いたかったです。事前に配布された資料を参考にして、教室や部活動などいろいろな場面で周りの人を引っ張っていけるリーダーになりたいです。生徒会執行部としての任期はもうすぐ終わりますが、生徒会執行部の一員として学んだことを、今後の学校生活の中で生かしていきたいと思っています。

### 「最後の大会で学べたこと」

3年2組 上山 剛史



僕は1年生の時から剣道部の部長を務めています。当時から剣道部は部員が少なく、部長1人ではなかなか活気づけることが難しい状況でした。しかし、そのような中でも、部員のみならず、家族、先生方、周りにはいつも支えてくださる人がたくさんいました。僕はこの夏の大会で必ず勝ち抜き、全国大会に出場することで、応援してくれる方々に恩返しをしたいという思いで最後の大会に臨みました。特に力を入れていた個人戦、僕は2回戦まで勝ち進むことができました。動きとしては悪くなく、自分が中学3年間で身に付けてきた実力を感じることができました。しかし、3回戦目、僕は1分もたたずに呆気なく負けてしまいました。試合直後は、なぜ負けたのかが分かりませんでした。自分のほうが多く練習してきたはずなのに……。自分の方が勝ちたい気持ちが強いはずなのに……。そう思っていました。試合後、先生がおっしゃいました。「勝ち急ぎすぎた。相手が見えていない。」この言葉を聞いてはっとしました。そして、自分なりに悔しい負けについて分析してみました。気持ちは今まで以上に入っていました。勝つことしか頭になく、自分勝手に試合をしていたことに気がきました。相手の心情、動きを読むという剣道において最も大事なことがその時はできていませんでした。どんな状況でも、一番大事にしたいことをぶれさせずに成し遂げるとはこんなに難しいのか。自分の心にガツンとくる出来事でした。今回の大会は、とても悔しく残念な結果に終わりましたが、この体験からこれからの人生において重要なことを学べたと思います。目先の事柄をただ漠然とこなして過ごしていると、結果的には自分で決めた最終地点を見失ってしまいます。しかし、その課題の先にある目的、目標を明確に理解した上で、「今」やるべきことに気付き、取り組んでいく。このことがこれからの自分にとって必要なことだと思いました。僕はこの先も剣道を続け、ただの選手としてではなく、「剣士」としてしっかりと人間形成をしていきたいです。中学校生活もあと6ヶ月ほどです。目標達成のために今、何をすべきか。常に考えて生活していきたいです。